

（５）価値観と将来展望

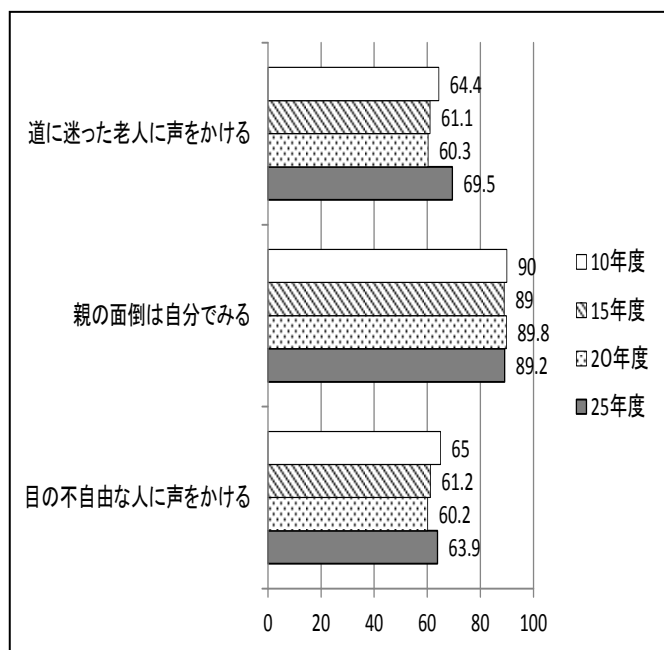
①福祉に関する価値観

問 3 2 次の場合あなたならどうしますか。

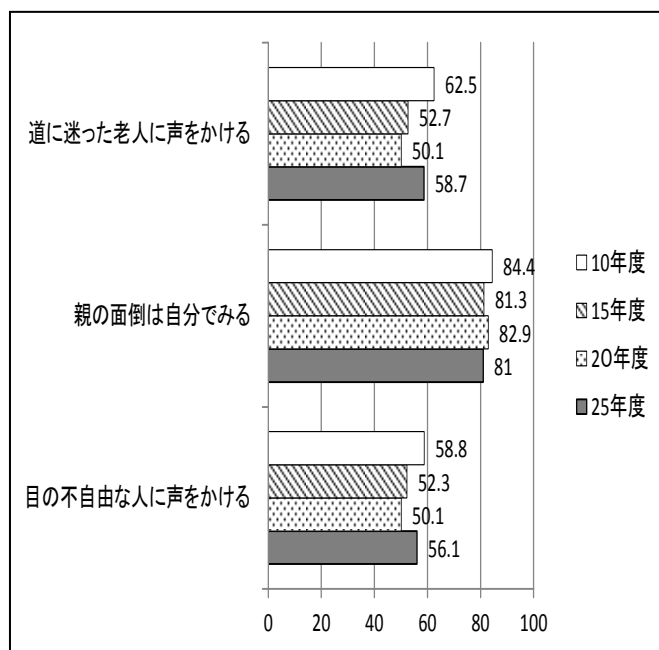
- A 道に迷っているらしいお年寄り（老人）に出会った
 1. 声をかける 2. 声をかけない
- B 親が年をとってからだが弱くなってしまった
 1. 自分でめんどろをみる 2. だれかにめんどろをみてもらう
- C 目の不自由な人が横断歩道をわたろうとしていました
 1. 声をかけて一緒にわたる 2. 声をかけない

※グラフは、「声をかける」「自分でめんどろをみる」「声をかけて一緒にわたる」と答えたものである。

問 32 福祉に関する価値観（小学生）



問 32 福祉に関する価値観（中学生）



<平成25年度の結果>

「道に迷っているらしいお年寄りに出会ったら声をかける」と回答した小学生は約7割、中学生は約6割となっている。また、「親が年をとって身体が弱くなってしまったとき、自分で面倒をみる」と回答した小学生は約9割、中学生は約8割と高い数値になっている。

それに対して、「目の不自由な人が横断歩道を渡ろうとしていたら声をかけて一緒にわたる」と回答した小学生・中学生は、約6割にとどまっている。

<平成10年度から20年度を通しての比較>

似た傾向が見られるのが、「道に迷っているらしいお年寄りに出会ったら声をかける」、「目の不自由な人が横断歩道を渡ろうとしていたら声をかけて一緒にわたる」の設問で、「声をかける」と回答したのは、小学生、中学生ともに、平成10年度から平成20年度にかけて緩やかに減少傾向にあったが、^(*)平成25年度においてその割合が増加している。

いっぽう、「親が年をとって身体が弱くなってしまったとき、自分で面倒をみる」と回答した小学生、中学生ともに、大きな変化はなく、高い割合のまま、ほぼ横ばいである。^(*)

全体を通して、小学生の方が、人に対してやさしく、親切な回答になっている。^(*)

②環境問題に対する意識

問33 次の A～I のことを知っていますか。

(くわしく知っている、知っている、きいたことはあるがよく知らない、知らないから選択)

A 地球の温暖化

D 熱帯林の減少

G ゴミ処理問題

B オゾン層の破壊

E 酸性雨

H 大気汚染

C 砂漠化

F 野生生物の絶滅

I 騒音問題

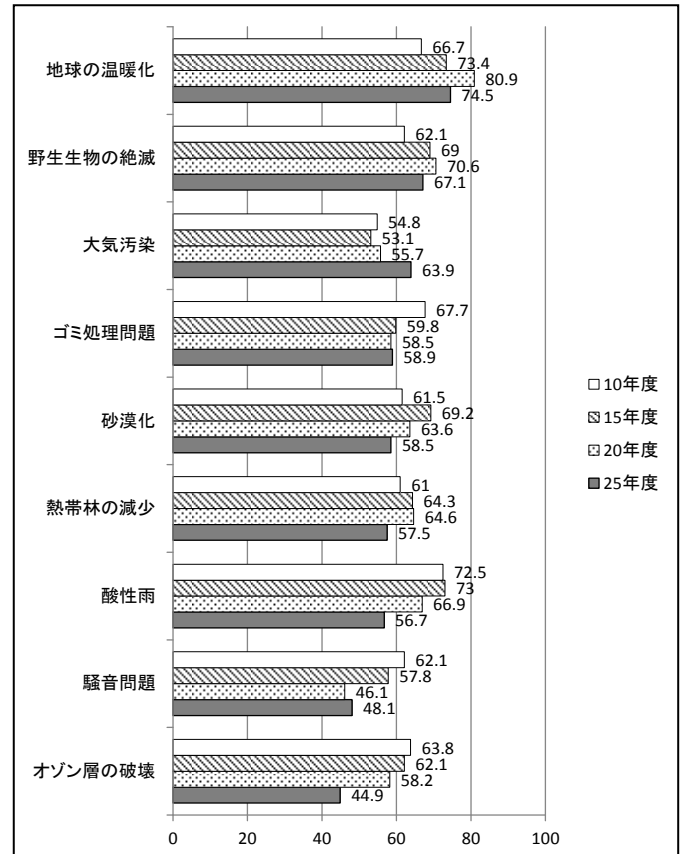
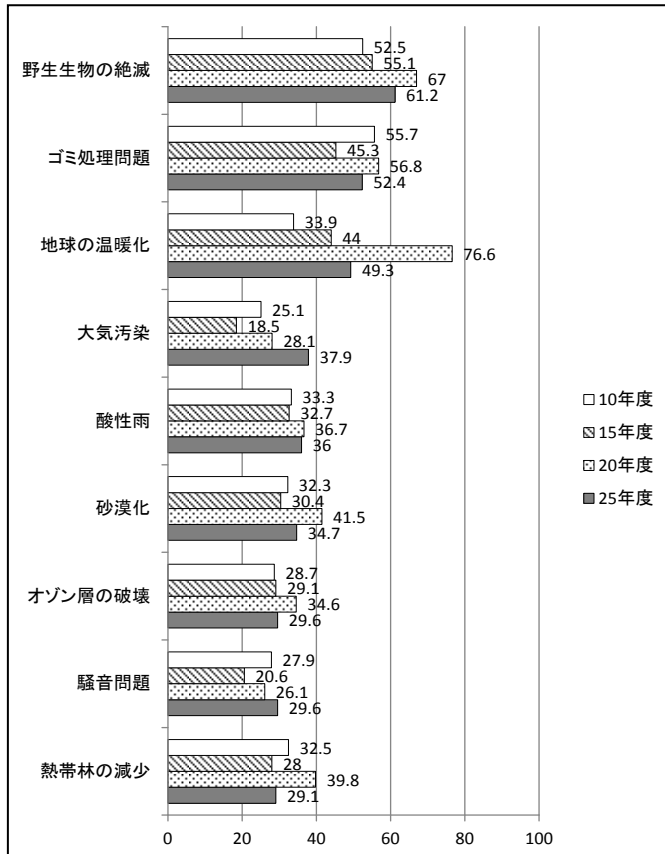
※グラフは、「くわしく知っている」「知っている」を合わせたものである。

問 33 環境問題に対する意識 (小学生)

(くわしく知っている+知っている)

問 33 環境問題に対する意識 (中学生)

(くわしく知っている+知っている)



<平成25年度の結果>

小学生で、「くわしく知っている」「知っている」と回答している割合がもっとも高いのは、「野生生物の絶滅」であり、次いで「ゴミ処理問題」である。

それに対して、中学生で最も割合が高いのは、「地球の温暖化」であり、次いで「野生生物の絶滅」「大気汚染」と続いている。また、中学生はほとんどの項目で「くわしく知っている」「知っている」と回答している割合が5割を超えており、環境問題に対して広く関心を持っていることがうかがえる。

<平成10年度から25年度を通しての比較>

小学生、中学生ともに、平成20年度まで年を経る毎に増加の傾向が見られていたものが^(*)、平成25年度で減少してしまった項目が多くなっている。

それに対して、小学生では「大気汚染」や「騒音問題」、中学生では「大気汚染」において、増加の傾向が見られる。^(*) 環境問題への意識の高さは、社会全体で話題になるなど、マスコミ等の影響も強いと考えられる。

問34 次の A～Eのようなことをしていますか。

(必ずしている、している、どちらかといえばしている、していない、まったくしていないから選択)

A ゴミはゴミ箱に捨てる

D 必要以外の水を流さない

B 缶やビンをリサイクルする

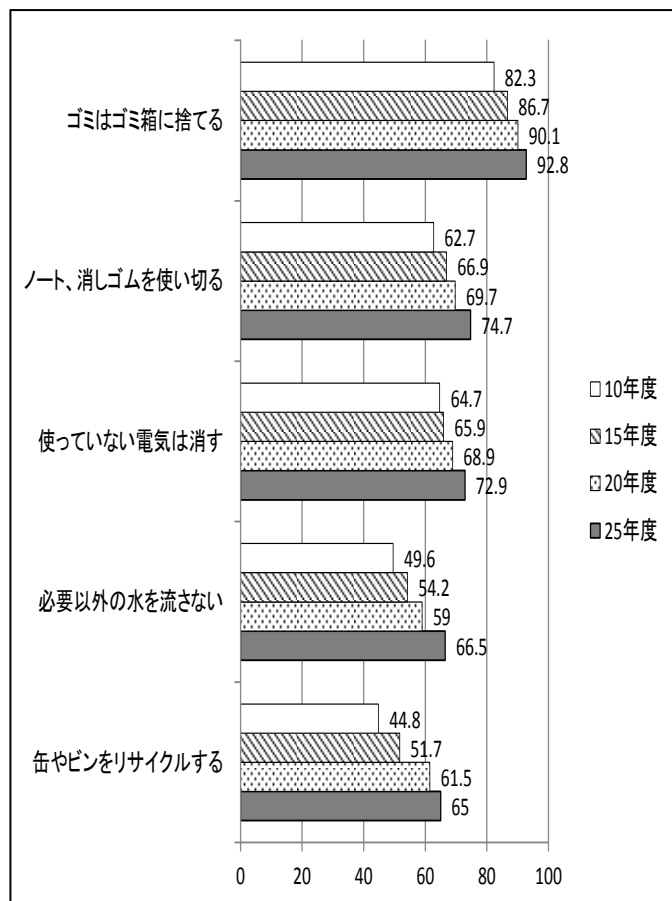
E 使っていない電気は消す

C ノート、消しゴムを最後まで使う

※グラフは、「必ずしている」「している」を合わせたものである。

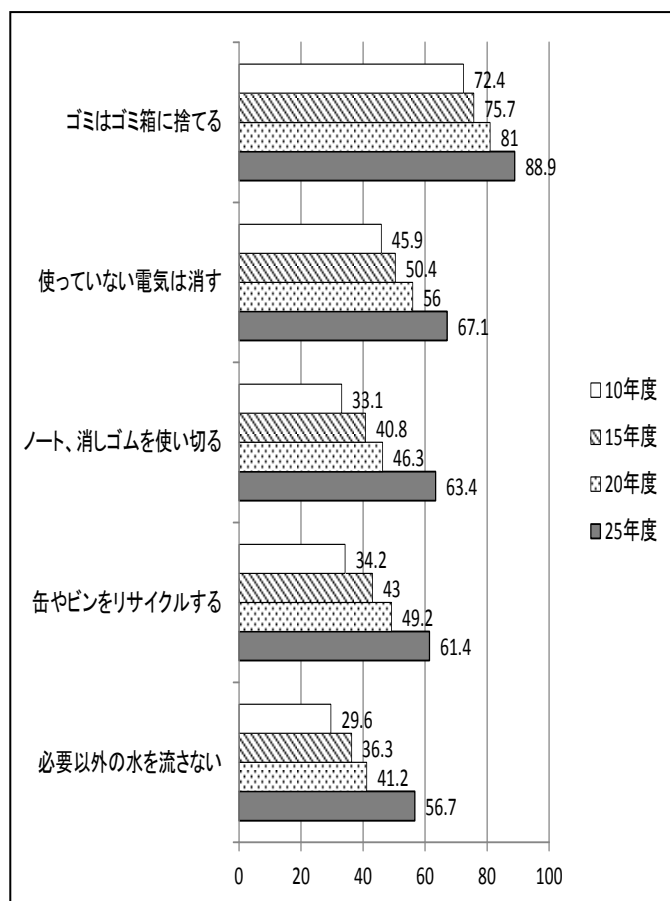
問 34 次のことをしているか (小学生)

〈必ずしている+している〉



問 34 次のことをしているか (中学生)

〈必ずしている+している〉



<平成25年度の結果>

容易に実践できる「ゴミはゴミ箱に捨てる」は、小学生で9割強、中学生でも約9割と高い数値を示している。

小学生では、「ノート、消しゴムを最後まで使う」「使っていない電気は消す」と回答した割合が、7割強である。すべての項目で、6割を超える小学生が「必ずしている」「している」と回答している。

中学生では、「使っていない電気は消す」が約7割、「ノート、消しゴムを最後まで使う」が6割強である。ほとんどの項目において、6割を超える中学生が「必ずしている」「している」と回答している。

<平成10年度から20年度を通しての比較>

問33で見られる関心の低下は、実践にはほとんど影響せず、小学生、中学生ともに、すべての項目で増加の傾向が見られる。 (*)

③ 染髪・ピアス等への価値観

問35 あなたが、次のA～Dのことをしてもいいと思う（したいと思う）のは、いつ頃ですか。

（小学校高学年、中学生、高校生、大人、そうしてはいけない（したいと思わない）から選択）

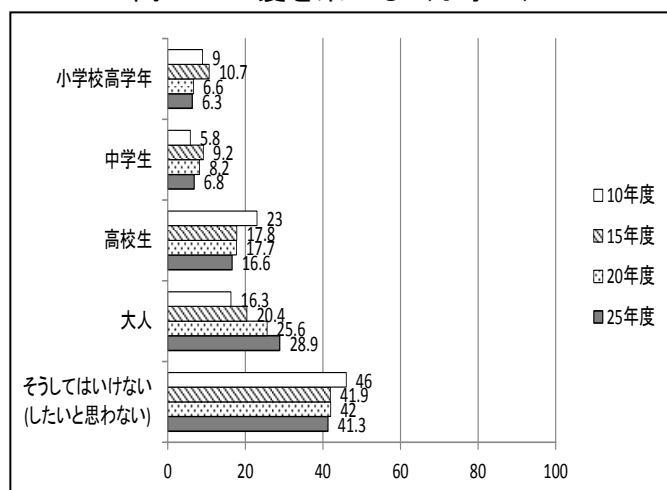
A 髪を染める

C 化粧をする

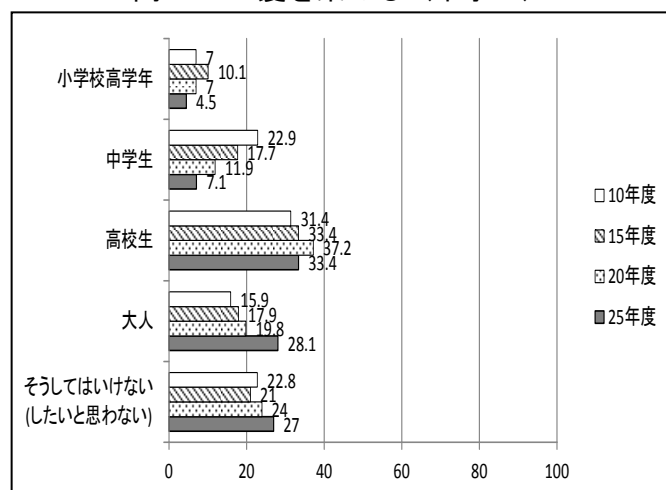
B ピアスをする

D 携帯電話・スマートフォンを持つ

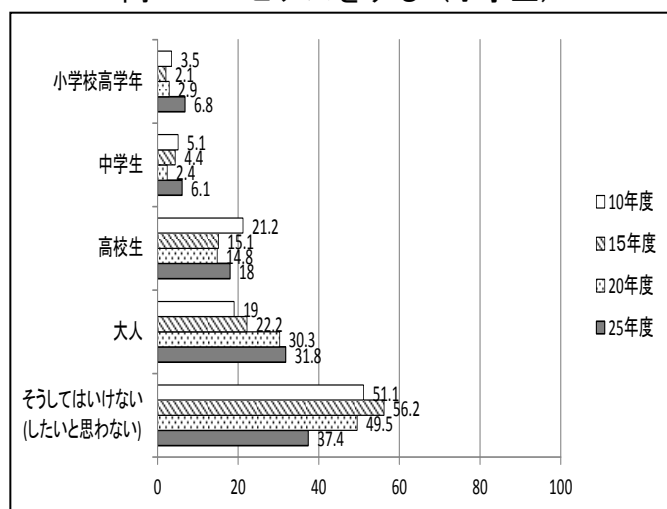
問35A 髪を染める（小学生）



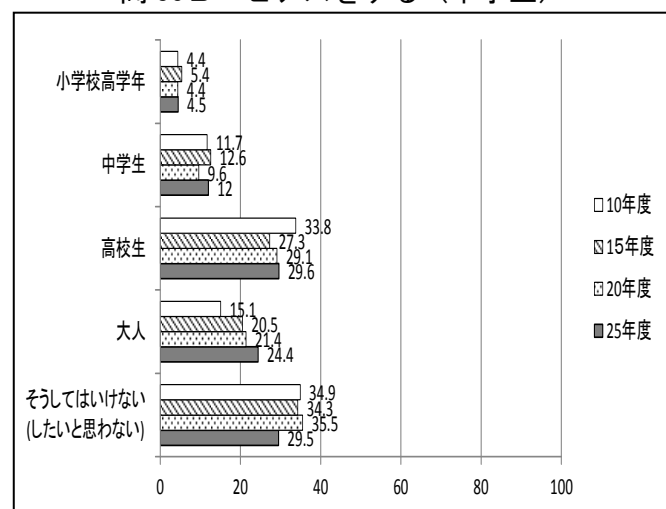
問35A 髪を染める（中学生）



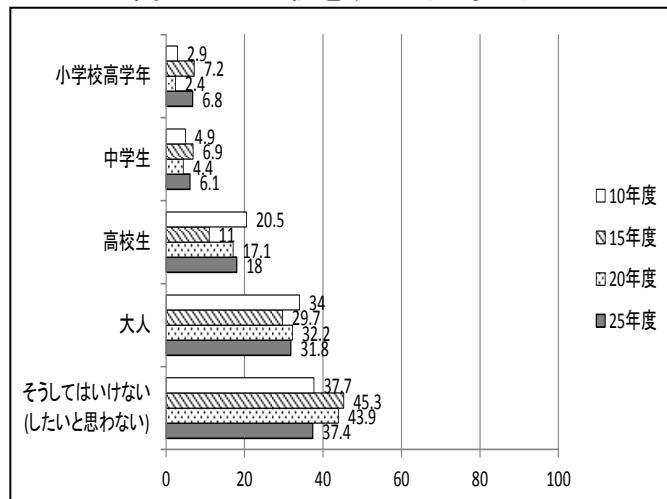
問35B ピアスをする（小学生）



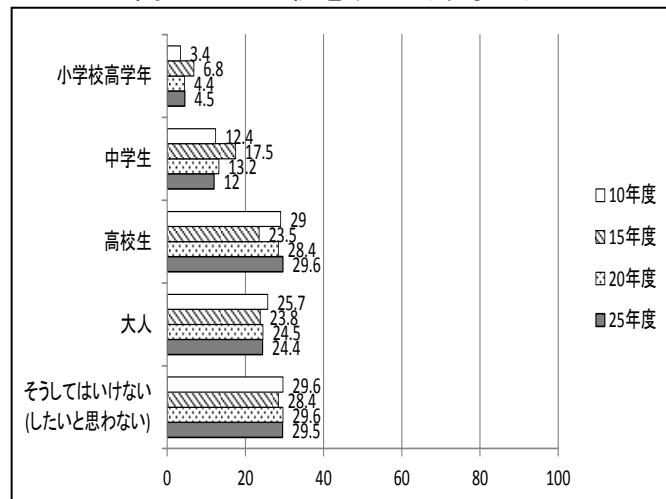
問35B ピアスをする（中学生）



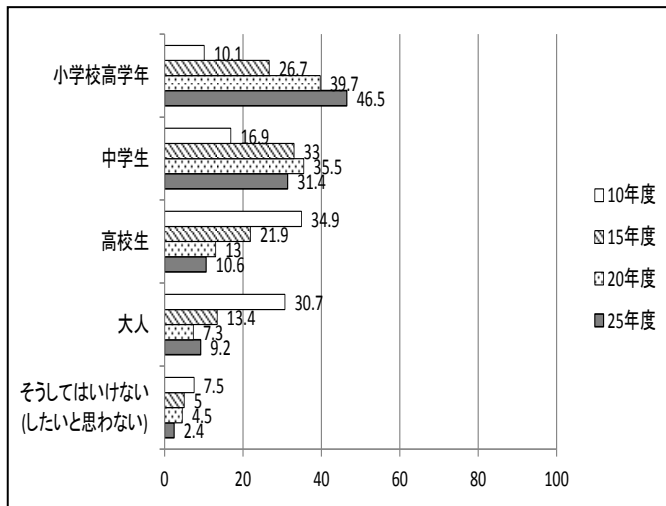
問35C 化粧をする（小学生）



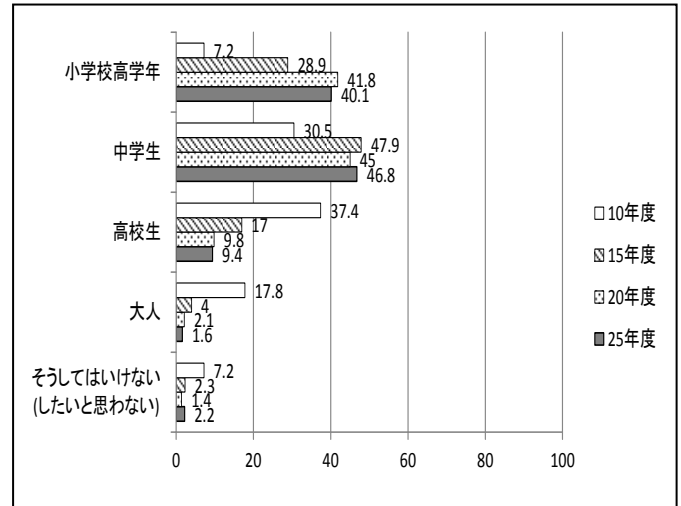
問35C 化粧をする（中学生）



問 35 D 携帯電話・スマートフォンを持つ（小学生）



問 35 D 携帯電話・スマートフォンを持つ（中学生）



※問 35 D について、平成 20 年度までは、「D 携帯電話を持つ」。

<平成 25 年度の結果>

「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」の 3 項目については、小学生では大人になってから、中学生では高校生でてもいいと思っており、両者の間に意識の違いが見受けられる。

「携帯電話・スマートフォンを持つ」については、小学校高学年、中学生までに「してもいいと思う（したいと思う）」が多数を占め、現代社会の流行が反映されている結果となっている。

いっぽうで、「そうしてはいけない（したくない）」という回答は、小学生に多く、「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」の 3 項目において最も高い割合である。中学生は、「そうしてはいけない（したくない）」が小学生ほど多くない。

<平成 10 年度から 25 年度を通しての比較>

「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」については、小学生では大人になってから、中学生では高校生でてもいいという結果はほぼ変わっていない。また、小学生では「そうしてはいけない（したくない）」の割合が最も高く、4 回の調査でもほぼ横ばいという結果となっている。

携帯電話・スマートフォンについて、小学生では、小学校高学年で持ってもよいという回答が、増加傾向にある。^(*) 中学生では、小学校高学年や中学生で持ってもよいと回答する割合が増加傾向にある。^(*) 携帯電話やスマートフォンの保有が当たり前になっている現状がうかがえる。

④ 将来について

問37 どんな生き方をする大人になりたいですか。A～Gのそれぞれについて教えてください。
(とてもなりたい、なりたい、どちらともいえない、なりたくない、まったくなりたくないから選択)

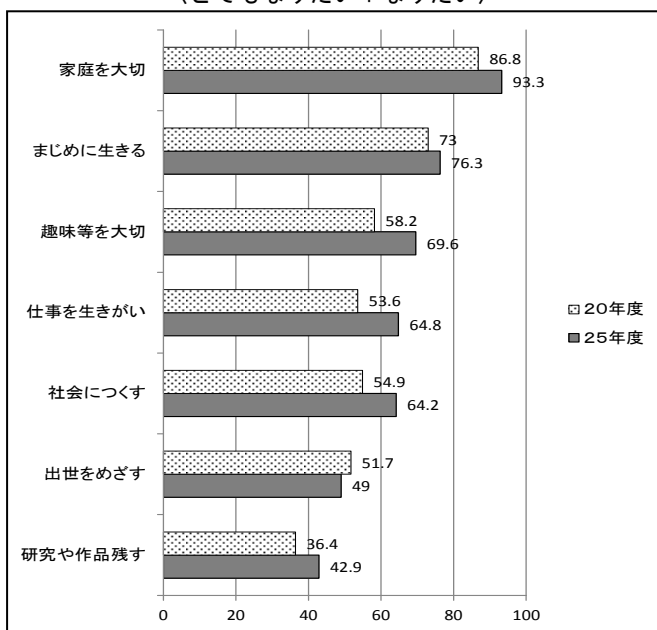
- A 仕事を生きがいにする人
- B 出世をめざす人
- C 家庭や家族を大切にする人
- D 仕事以外に趣味やレジャー等も大切にする人
- E 社会や人々のためにつくそうとする人
- F 学問や芸術で、よい研究や作品を残そうとする人
- G 努力してまじめに生きようとする人

※グラフは、「とてもなりたい」「なりたい」を合わせたものである。

※小学生は、平成20年度から実施。

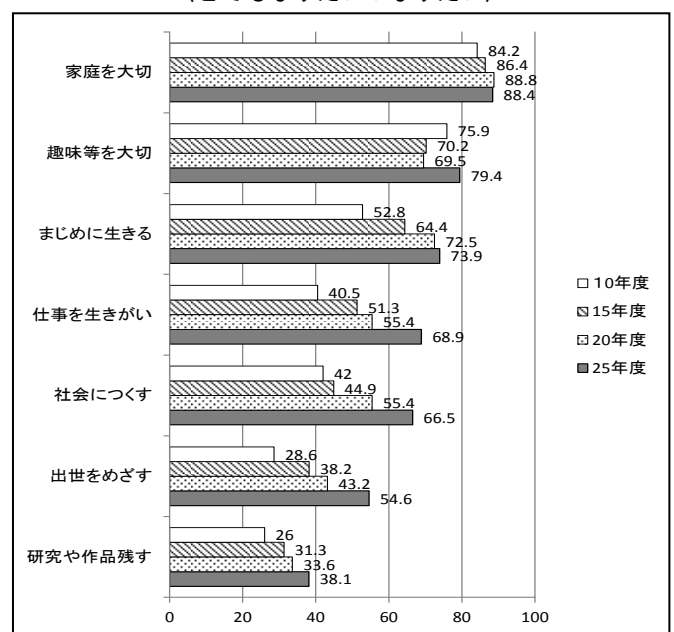
問37 どんな生き方の大人になりたいか（小学生）

〈とてもなりたい+なりたい〉



問37 どんな生き方の大人になりたいか（中学生）

〈とてもなりたい+なりたい〉



＜平成25年度の結果＞

小学生、中学生ともに、「とてもなりたい」「なりたい」と回答している割合がもっとも高い項目は、「家庭や家族を大切にする人」で、小学生で9割強、中学生で8割強と、かなり高い数値を示している。次いで、小学生では「努力してまじめに生きようとする人」が7割強、中学生では「趣味やレジャー等も大切にする人」が約8割と高い。

さらに、小学生では「趣味やレジャー等も大切にする人」が約7割、「仕事を生きがいにする人」「社会や人々のためにつくそうとする人」が6割強と続く。中学生では「努力してまじめに生きようとする人」が7割強、「仕事を生きがいにする人」が約7割、「社会や人々のためにつくそうとする人」が6割強と続く。

小学生、中学生ともに、高い数値を示す項目がほとんど変わらないことから、小学生と中学生の価値観の相違はほとんどなく、同じような生き方をしたいと考えていることがうかがえる。

＜平成10年度から25年度を通しての比較＞

小学生では、「努力してまじめに生きようとする人」「出世をめざす人」はほぼ横ばいで変化がないものの、それ以外の項目については、前回よりも増加している。

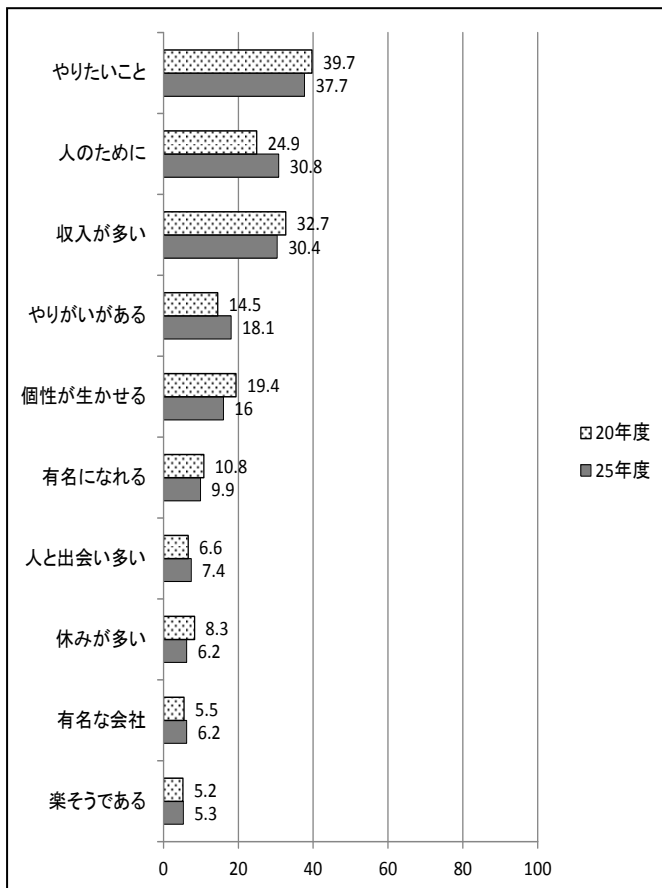
中学生では、「努力してまじめに生きようとする人」「仕事を生きがいにする人」「社会や人々のためにつくそうとする人」「出世をめざす人」「よい研究や作品を残そうとする人」で増加傾向が見られる。^(*) また、「家庭や家族を大切にする人」は高い数値のままほぼ横ばいである。「趣味やレジャー等も大切にする人」は、平成20年度まで7割前後とほとんど変化が見られなかったのに対し、平成25年度の調査で回答の割合が増加する結果となっている。

問 3 8 職業を選ぶときには、どのような理由で選ぶと思いますか。（2つまで）

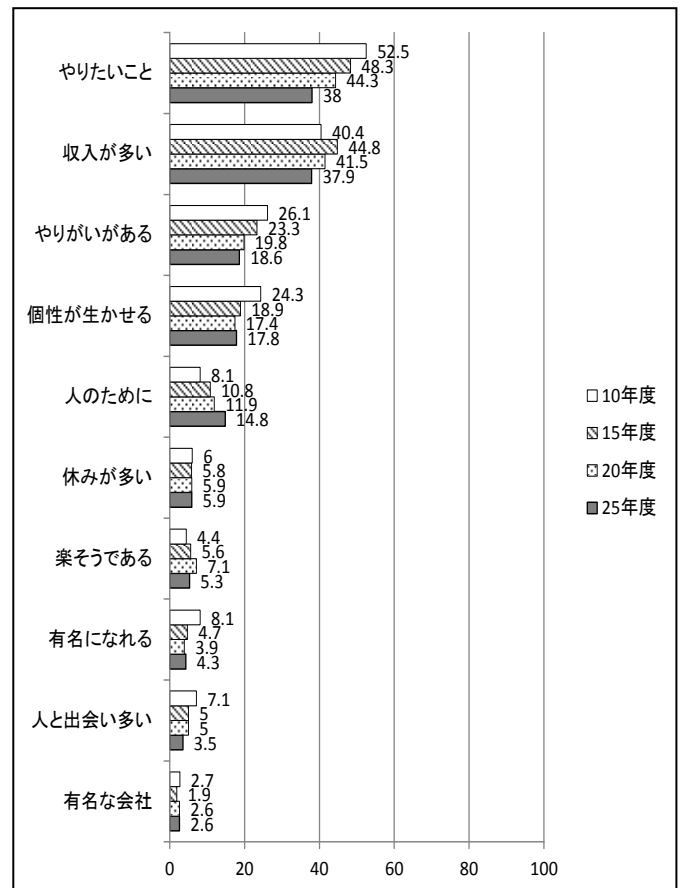
- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 収入（給料）が多い | 6. 人のためになる |
| 2. 楽そうである | 7. やりがいがある |
| 3. 有名な会社である | 8. 人との出会いが多い |
| 4. 自分のやりたいことと一致している | 9. 自分の個性が生かせる |
| 5. 休み（休日）が多い | 10. 有名になれる |

※小学生は、平成20年度から実施。

問 38 職業を選ぶ理由（小学生）



問 38 職業を選ぶ理由（中学生）



<平成25年度の結果>

小学生、中学生ともに、「やりたいことと一致している」と回答している割合が最も高く、4割弱である。次いで、小学生では「人のためになる」「収入が多い」が約3割、中学生でも「収入が多い」で約4割という結果となっている。これら以外の項目は、小学生、中学生ともに2割に満たない。

「人のためになる」「有名になれる」「有名な会社である」は、小学生の方が中学生よりも職業を選ぶ理由に挙げている。それに対して「収入が多い」は、中学生の方が小学生よりも職業を選ぶ理由に挙げている。このことから、小学生では、社会貢献、地位や名誉といったものへの意識が高いことがうかがえる。また、中学生では、より現実的な豊かで安定した生活を求めていることがうかがえる。しかしながら、目的意識や収入を得ることを一番に上げているものの、それほど大きな位置を占めてはならず、男女で比べると、男子は「収入が多い」、女子は「人のためになる」や「やりがいがある」が有意に多く、多様な価値観が混在していることを示している。

<平成10年度から25年度を通しての比較>

小学生では、「人のためになる」「やりがいがある」が前回に比べ増加しているが、(*) これら以外の項目には、有意な変化はない。

中学生では、年を経る毎にほとんどの項目で減少傾向にあるが、その中でも「人のためになる」については、増加傾向にある。(*) 東日本大震災の影響も考えられる。